

なぜ「ことば」なのか？

- ・「言葉」を学ぶ、特に、子どもが言葉を学ぶというのは、どういうこと？
- ・知性＝いわゆる「アタマの良さ＝学校の成績」のため？

いいえ、違います。

★言葉はまず第一に、「自分の心（脳）の中にある「……………」を自分自身でつかまえるための道具」

言葉が育ち、その一方で、自分の心（脳）の中にある「……………」をまず言葉で表現する習慣が身についていくこと。

●言葉にならないことは、つかまえることができない。

例：「おなかがすいた」「空腹だ」等という言葉が知らなかったら？
「ムカついた」「キレた」という言葉以外に、心（脳）の中にある、他人に対するぐちゃぐちゃした感情を自分で自分に表現できなかったら？

★言葉は次に、「自分の心（脳）の中にある『……………』を他人に伝えるための道具」

→ 保育現場でよくおっしゃる、「言葉が出ないから手が出てしまう」。
「どういう気持ち？ 言葉にしてみてください」と子どもに言いますよね。

●言葉にならないことは、表現することが難しい。

例：その子の「……………」に合った言葉／語彙を、その子自身が持っていないかったら？
周囲のおとなの言葉があまりにも貧しく、いつも同じで、その子の「……………」に合わなかったら？

◎研究結果

どちらが先？？？ 言語能力⇔感情コントロール ???

- ・言語能力が低いから感情をコントロールできないのか 🍷 こっち！
- ・感情をコントロールできないから、言語能力を上げにくいのか

「3000万語の格差」サイト→最近の研究→語彙と感情コントロール

https://kodomoinfo.org/recent_old_1.html

★おとなも同じです。

○自分の感情、考えを自分でつかみ、人に伝えることができる単語の豊かさ

✖言葉を「うまく」「流暢に」使いこなす

「3000万語の格差 Three Million Word Gap」とは？

最初の研究：ベティ・ハートとトッド・リズリーによる研究（1980年代後半から始まり、1990年代後半以降、結果が公表された。2003年の論文がもっとも有名。

日本は2018年！

→ 貧困層と専門職層（※）の子どもでは、4歳時点までの言葉の積算差が3000万語に及ぶ。

（※米国には日本の公務員にあたる所得層がない。専門職＝医師、大学教授、弁護士等）

＝1日の差でみると、約1400語

→この差が3歳時点のIQの点数に相関（比例）。追跡研究では、9歳、10歳時点の言語スキル、学校テストの点数とも相関していた。

これは貧富の差の問題？ 違います。

貧困層の間でも、言葉がけの数はバラバラ。専門職の人より多い人もいる。専門職層の間でも、言葉がけの数はバラバラ。貧困層の人より低い人もいる。積算差を平均すると3000万語。つまり…。

貧富の差は間接的に言葉がけの数に影響しているだけ。

乳幼児期の言葉がけ、言葉のやりとりが人生に効く

ハート&リズリー後の複数の縦断（追跡）研究から、乳幼児期の言葉がけ、言葉のやりとりが多いほど、後年に測った認知スキルだけでなく、非認知スキルも高いことがわかっている。

＝学習のあらゆる分野、創造性、共感性等すべて

・算数やテクノロジー分野の男女差の一部も、言葉が原因

「女性は科学が不得意」は嘘

・男性の生きづらさの一部も、言葉が原因

「男の子でしょ！泣くな！」を言うてはいけない

セルフ・エスティーム（self-esteem、自分を大事にする感情）も育てる

・単純なほめ言葉は逆効果

・過程や、できたこと、作ったものを具体的にほめる → おとなの語彙、表現力が必要

「3つのT」とは：脳（心）を育てる基本、関係を育てる基本

チューン・イン (Tune In)

注意とからだを子どもに向ける（「つもり」「気持ち」ではなく）
これがもっとも大事。チューン・インがなかったら、あとの2つはほぼ無意味。

生身の人間にしかできない。子どもが多数では困難。

子どもの問いかけに、ただ返事を返せばよいわけではない。

- ・おとな相手の傾聴でも重要！ 「この人、聞いてない！」はわかる。

トーク・モア (Talk More)

子どもとたくさんたくさん話す（← 子ども「に」ではない）。

テイク・ターンズ (Take Turns)

子どもと対話をする。生後すぐの赤ちゃんでも。

- ・おとな相手の傾聴でも「話せてよかった！」「聞いてもらった！」という感情を生むのは、トーク・モアとテイク・ターンズ。

★「3つのT」は、あたたかく、穏やかな声のトーンと、からだの動きで！

冷たい声、いらだった声は、脳も関係も育てない。

★「開かれた質問」をしていますか？（⇔ 閉じた質問）※

「3000万語の格差」「3つのT」、保育園でも大事？

「人が足りない」「子どもたちと関わる時間がない」…。それでも、しようとしなないよりは、しようとした方がいい。

→ 対子どもだけでなく、対おとなでも大事な知識、技術、スキルだから。

★「できない」「無理」「ダメ」に目を向けて落ち込んでいる時間があつたら、「これならできる」「やってみよう」を考えて、実際に行動する。

★「白か黒か」「ゼロか百か」「正解を知りたい」「完璧にやらなきゃ」…の考え方をやめる。

例：「赤ちゃん言葉をやめないで」

→ ✕ 「赤ちゃん言葉で話さないといけないんですね」

✕ 「おとな言葉で話しかけたらいけないんですね」

★「親を変えなきゃ」「親に伝えたい」…、その前にあなたが実行を。自分がしていないことを、他人に伝えようとしなないで。

どうすれば、「豊かに」なっていくか

- 1) おとなの言葉を豊かにする：同じ言葉を使っていることに気づいたら、その場の文脈で言い換え、選択肢を増やす（メール等の書き言葉のほうが気づきやすい）

- ・了解、りよ、り
→ []
- ・すみません
→ ありがとう ～ ごめんなさい／申し訳ございません
- ・お疲れさま（挨拶がわりに濫用）
→ おはよう（ございます）～こんばんは。お世話になってます等
（✕ご苦労さま）

わからなくなったら、疑問な言い回しを「ビジネス」というキーワードと一緒に検索してみる。 例) お疲れさま ビジネス 正しい

- 2) おとな間の言葉を豊かにする：

繰り返している言葉には具体的な記述を必ず足す

- ・やばい、ビミョー、エモい
「それってやばい！ あ、おいしいってことです（^）」
「運動会を父母参加でするので…ビミョーですよ…。あ、やめたほうがいいのかなくて」

- 3) 子どもにかけられる言葉を豊かに、具体的にする：

- ・「こそあど言葉」を減らす
- ・繰り返している言葉や、具体性のないほめ言葉には具体的な記述を必ず足す

例：じょうず、すごい、カッコいい、すてき…

「じょうず！」→「ひっかからないで跳べたね！」

「きれいだね」→「青い色がとってもきれい」

「すごい！」→「もう食べ終わったの？ おなかすいてたんだ！」

- 4) 子どもにかけ言葉豊かにする：差別になるような使い方をしない
決まりきった言葉を使っていると、おとながかかわりを持たない子どもが出てきてしまう。具体的な記述は、誰に対してでもかかわりをつくることができる。
- ・「じょうず」「えらい」等は特に、特定の子どもに使っていないか。
「ほめられたいから従う」という感情を子どもたちに生んでいる？
 - ・「かわいい」「かっこいい」を、男子、女子にそれぞれ使っていないか。
特定の子どもにばかり使っていないか（保育者の好き嫌い）。

「具体的な記述」とは？（『3000万語の格差』から）

子どもとかかわっている中で…（チューン・イン必須！）

1. おとな自身が子どもにしていることを、ひたすら記述する
2. 子どもがしていることを、ひたすら記述する

何を記述したらいいかわからない？

- …色、形、におい、触感。
- …子どもが言った言葉から増やす、言い換える。

おとなの言葉は、豊かにしようと思って学ばなかったら、豊かになりません！ 本をただ読んでも、使わなかったら身につけません！

※開かれた質問（open-ended question）と閉じた質問（close-ended question）

閉じた質問は、「はい／いいえ」または「選択肢」から答える質問

例：「これは赤？ 青？」「おいしい？」「それでいいのかな？」等

開かれた質問は、答える側が自由に答えを考えて話せる質問

例：「どんな味がする？」「動物園で何を見たの？」「それから？」

「なんでだろう？ 考えてみようか（調べてみようか）」

閉じた質問は、考える力を育てない。「なぜ」「どうして」を考えるおとな、調べるおとなを育てるためには、開かれた質問をする。

掛札逸美

心理学博士（社会／健康心理学）：専門は安全の心理学、コミュニケーションの心理学

- 「保育の安全」サイト（「保育の安全」で検索。下の2つのリンクもここにあり）：
<https://daycaresafety.org/>
- Facebook ページ（新型コロナ関連の情報、ひな型等）：<https://www.facebook.com/daycaresafety/>
- 「3000万語の格差と関連情報」サイト（「新潟1歳児3対1」報告書やZoomマニュアル、研修会資料等もそれぞれのタブに）：<http://kodomoinfo.org/>

略歴

1964年生まれ。筑波大学卒。（公財）東京都予防医学協会広報室に10年以上勤務。

2003年、コロラド州立大学大学院心理学部応用社会心理学科に留学。健康心理学を専攻。2007年1～2月、世界保健機関（WHO）協力機関・カロリンスカ研究所／医科大学公衆衛生学部社会医学部（ストックホルム）が開催する「国際傷害予防集中コース」（5週間）受講。2008年2月、心理学博士号取得。同5月卒業、帰国。

2008年6月から2013年3月まで、産業技術総合研究所特別研究員。

2013年4月、NPO法人保育の安全研究・教育センター設立・代表理事。2020年3月、NPO格を返上し任意団体化。

委員等

「平成27年度 教育・保育施設等の事故防止のためのガイドライン等に関する調査研究事業検討委員会」委員（内閣府、厚生労働省、文部科学省）

「千葉県社会福祉審議会児童福祉専門分科会施設部会 保育に係る重大事故検証委員会」委員長（2016年12月26日～2017年8月31日）。現在も同委員。

主な（共）著書、訳書

